

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 スマート農業産地モデル実証事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 スマート農業推進係 電話番号：058-272-1111(内4023)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,862 千円 (前年度予算額：60,239 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	60,239	0	0	0	0	0	60,239	0	0
要求額	2,862	0	0	0	0	0	2,862	0	0
決定額	2,862	0	0	0	0	0	2,862	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

農業経営体の減少や労働力不足など、県農業の抱える課題解決に向けて、スマート農業の活用に期待が高まっている中、導入・普及を進めるため、農業者の理解促進や品目に合った技術の確立が必要となっている。

また、スマート農業技術導入等により、産地が一体となって、持続性の高い生産基盤を構築する必要がある。

(2) 事業内容

○「スマート農業実証農場」の設置 (2,862千円)

土地利用型作物等において、スマート農業技術の導入による各種作業の効率化やコスト低減、販売の強化等の効果を最大限に発揮する持続可能な「スマート農業実証農場」を整備し、スマート農業技術導入効果を実証する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費		
旅費	862	検討会、会議及び実演会等
需用費		
役務費		
委託料	2,000	実証概要紹介動画作成費
工事請負費		
補助金		
その他		
合計	2,862	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2019～2023年度）
Ⅱ－3－（3）－② 「未来につながる農業づくり」の推進
- ・ぎふ農業・農村基本計画（2021～2025年度）
第6章 将来像達成に向けた取組み
- ・岐阜県スマート農業推進計画（2019～2023年度）
重点施策（2）技術の実証
- ・岐阜県DX推進計画（2022～2026年度）
第2章－Ⅲ－12－（1）－② 生育・環境データ等に基づく管理・診断技術による生産管理の高度化

(2) 後年度の財政負担

2022年度～2023年度の2か年で行う実証のため、2024年度以降は県の財政負担は発生しない。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

スマート農業技術の導入・普及を産地全体で進めることで、導入コスト低減を図るとともに単収の向上や高品質生産及び付加価値向上等を図り、生産性や収益性の高い産地づくりを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H30)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
①スマート農業技術導入経営体数	168	345	418	455	550	76%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	最新のスマート農業技術の普及を図るため、産地におけるスマート農業技術の一貫体系の中で導入コスト削減を目的としたシェアリングなどの実証を行い、省力効果や収益性等を明らかにする必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	R3の年度目標値370経営体に対して実績は418経営体であり、順調に事業効果が発揮していると認められる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	専門家や企業・関係機関等とともにコンソーシアムとして実証に取り組むことで、役割分担しながら効率的に実証事業に取り組むことができている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 スマート農業技術の導入・普及を促進するためには、スマート農業技術による省力化、高品質化等の定量的効果分析や、効率的なシェアリング方法の検討等により、経営効果を明確にする必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県農業の抱える課題解決のために、スマート農業が大きな役割を担っていることから、今後も継続して実証に取り組み、実証成果に基づいたスマート農業技術の導入・普及を図っていく必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】